

～札幌市南区「むくどり公園」の事例にならう～

公園はみんなに優しい交流広場

実施概要

1. 日 時 : 平成21年7月18日(土) 10:00～12:00
2. 会 場 : 江別市野幌公民館 研修3・4号室
3. 受講者数 : 78名
4. 講 師 : 柴川明子さん(むくどりホームふれあいの会 代表)
1996年、むくどり公園に隣接する自宅を開放。障がいのある人も無い人も、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが気軽に立ち寄れる友達づくりの場を創設、現在も運営に尽力している。
櫻井亮一さん(株KITABA 取締役 主席プランナー 東海大学非常勤講師)
むくどり公園の設計に携わり、住民や行政との調整に励むなど開園に尽力した。現在も公園管理、むくどりホームの運営に協力している。
白鳥健志さん(NPO 法人えべつ協働ねっとわーく 理事長)
“市民自らがまちづくりを行うのが理想”と考え、10年ほど前からまちづくりの市民活動を実践している。
江別市民活動センター・あいの設立に努力した。
5. 主 催 : エコ・グリーン事業協同組合
6. 協 力 : NPO 法人 えべつ協働ねっとわーく

講演会&座談会の開催のねらい

札幌市南区藤野に、健常者も障がいのある人も楽しく遊べる公園があります。隣には民家を開放した“ふれあい広場「むくどりホーム」”があり、地域の交流広場になっています。市民それぞれが、何事にも縛られず、自由な場所で自由な雰囲気の中で交流できる場を持つことは重要です。ひいてはそれがまちづくりの基本である市民間のコミュニケーションの円滑化を招き、心優しく、豊かなまちづくりにつながると考えられるからです。むくどりホームの取り組みを知ることにより、その必要性や江別での可能性について考えることを目的としました。

講演会&座談会の内容

<むくどり公園&むくどりホームの概要>

- ・公園は1996年8月、街区公園として札幌市により整備されました。設計は「障害者も健常者も共に使える公園」をコンセプトに障害のあるひとや地域住民も加わってワークショップを行いながら進められました。ワークショップによってコミュニケーションが助長され、共に使える公園の土壌づくりに役立ち、その後の管理面でも生かされています。
- ・「むくどりホーム」は柴川さんが誰もが自由に交流できる場として自宅を開放。管理運営はボランティアメンバー(むくどりふれあいの会)により週3回(月、火、土)オープンしています。
- ・公園とむくどりホームの連携が成功の秘訣。両者あわせて「つどいの広場」となっています。
- ・課題は運営費・建物管理費の調達。公的な位置づけがないので資金対応が難しく、責任をもって運営するためには人件費の対価が必要なのですが、解決策は見えていない現状です。

＜江別における可能性＞

「ホーム」の創設は難しい面があるが「公園」は実現の可能性は大きい。むくど公園の趣旨である、誰でも自由に来られる、楽しく遊べる、コミュニケーションが豊か、といったものを「空き地」「スペース」「場」に置き換えることができると思う。そういったものを是非作ろうという「思い」を持つことが必要。がんばって欲しい。

講演会&座談会の様子



↑ 白鳥理事長の講演会の説明



↑ エコ・グリーン事業協同組合 高橋事務局長挨拶



↑ 講師 櫻井亮一氏 柴川明子氏



↑ 会場風景①



↑ 会場風景②



↑ 質疑応答の様子